



「伝えたい木の文化、残したい美しい森」
「美しい森林づくり推進国民運動」

株式会社ジャパンエナジーの 美しい森林づくり

美しい森林づくり全国推進会議の構成団体である株式会社ジャパンエナジーは、JOMOステーションとして車社会の私たちに
とって非常に身近な会社ですが、「森林の里親」制度に参画したり、
3・9ペーパーを使用した「童話の花束」を発行するなど、森林
資源の育成と間伐材利用という両面において、積極的な社会貢献
活動を展開しています。「社員・家族を主体に身の丈に合った活
動を展開することが、森林への貢献活動を永く続けられるポイン
ト」と語る同社の取組をレポートしました。

ジヤパンエナジー（JOMO）
はエネルギーを生産し供給す
る石油専業会社だけに、地球温暖化
防止や環境負荷の軽減に向けた取組
を積極的に推進しています。製油所
における省エネルギー化や、タンク
ローリーの大型化による輸送時のエ

ネルギー低減など産業としての省エ
ネルギー化に取り組んでいます。一
方で、企業の社会的責任（CSR）
の遂行に関しても積極的な取組を進
めています。
JOMOのCSRの取組の重要
分野の一つが森林保全活動です。



社会貢献担当課長を務める近藤さん



JOMOは2004年に社員ボランティアによる活動として新潟県胎内市に所有する砂防林の再生に取り組み、森林ボランティアin中条を合い言葉に森づくりを始めました。2005年4月には長野県が推進する「森林(もり)の里親促進事業」に参加し、「原村・JOMOあゆみの森」活動を開始し、社内ボランティアや地域住民と協働して植樹、下刈り、間伐などの保育活動を展開、また森林整備資金を原村に提供しています。

2006年3月には岡山県高梁市で「高梁・JOMOふれあいの森」の整備も開始しました。高梁の森は赤松の里山林に戦後ヒノキを植えていましたが、自然の植生に戻りたいという希望でヒノキの間伐を進め、現在ではマツタケが採取できるほどに植生が戻ってきています。

これらの森林保全活動は、あくまでも社員ボランティアで、息の長い保育作業を継続したいとの願いから、JOMOの製油所または研究所からアクセスできる場所を選定しています。「資金提供を行うから作業は地元の人に頼む、というのではなく、まずは自分たちが中心

となって活動すること。そして身の丈にあった活動にとどめること。これが息の長い森林への貢献活動を永く続けられるポイントだと思っています」と語るのはジャパンエナジーのCSR推進部社会貢献担当課長を務める近藤奈美さんで、JOMOのCSRのポリシーです。

「高梁・JOMOふれあいの森」で除伐されたヒノキを素材とした『ぬりえセット』(写真)は、全国のJOMOSTーションに配布され、待ち時間を癒すツールになっています。

今年で40回目を数える「JOMO童話賞」と、その優秀作品を集めて毎年刊行している「童話の花束」では3・9ペーパーを使い、「原村・JOMOあゆみの森」で切り捨て間伐されていた材の運送経費を負担することで、間伐材利用の3・9ペーパーを使う仕組みも完成しました。

森を守る取組が、資源利用という面での環境貢献にも生かされており、CSR活動の意義付けが一段と強化されたといえます。

